2012年 11月13日 （火）紀 伊 民 報

情報伝達の模擬訓練

災害に備え医療関係者ら

田辺

携帯電話や無線を使い、本番さながらの情報伝達訓練をする参加者
（11日、田辺市たきない町で）

田辺保健所と田辺地方医療対策協議会は11日、東南海・南海地震などの大規模災害に備え、田辺市たきない町の南和歌山医療センターを主会場に情報伝達の模擬訓練をした。23機関約100人が参加し、大規模災害時の司令塔役となる災害医療コーディネーターチームなどを設置した。

訓練は午前9時20分、紀伊半島沖を震源とするマグニチュード9・1の地震が発生し、最大震度7を観測、20分後には12㍍を超える大津波が来襲したとの想定で、被災後3日間の対策を行った。

主会場では、災害医療コーディネーターの川崎貞男（南和歌山医療センター）、伊藤浩二（白浜はまゆう病院）両医師を中心に、保健所や市町、消防の関係者らが集まり、災害医療コーディネーターチームを設置した。消防本部や市町災害対策本部、医師会、県関係のブースなども設けて訓練した。

時間経過に応じた状況付与カード約870枚に基づいて情報を伝達。緊急患者や被害状況などを伝える携帯電話や無線のやりとりが会場に響いた。

コーディネーターチームは被災地の状況を把握し、災害派遣医療チーム（DMAT）の現地への配置、被災地内外の患者収容先の確保などの調整を行った。

終了後、各ブースからは「いざ何か起こったときに各市町から早急にコーディネーターが参集できるのか」「横の連絡が取れる訓練が必要」「県北部などのDMATの訓練参加も必要」などの意見が出た。後日、訓練の結果を基に検討会を開き、評価と検証をする。

災害医療コーディネーターは、災害時に医療関係者の司令塔役として、今年7月に県が県内の医師20人を任命した。今回の訓練はコーディネーターの役割や機能を理解すること、災害時における医療体制の強化を目的に行った。